

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770500361		
法人名	医療法人社団 慈泉会		
事業所名	グループホーム ひもろぎの園 1階		
所在地	福島県白河市関辺川前88		
自己評価作成日	令和元年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 福島県介護支援専門員協会		
所在地	福島県郡山市新屋敷一丁目166番 SビルB号		
訪問調査日	令和元年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症によって自立した生活が困難になっても、家庭的な環境と地域の方々との交流の下で地域の行事に参加したり季節の行事を大切にしている。又、日常生活に於いてもその人が出来る事を一緒に行ったり、その都度お礼の気持ちを伝える事で安心して生活して頂くと共に、自分が役に立っているのだという気持ちを持っていただけるよう心掛けている。入居者様の日々の状態を共有するために朝夕の申し送りや全体ミーティング、フロアミーティングを行い、何かあればその都度カンファレンスを行っている。ご家族様との関係を築く取り組みとして家族会を作り、年に2回皆で食事をする機会を設け、総会時には1年間のホームの取り組みや行事等を報告している。毎月担当者から御家族様への手紙を送り近況を報告したり毎月ホームの新聞を作成し写真などで入居者様や行事の様子などを送付している。何かあればすぐにご家族様に連絡し対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物は窓が大きくとられ外の景色もよく見え、明るく開放的に感じる。小学校の運動会や、近隣の山開きなど地域のイベントに参加したり、施設や法人内の行事に地域の方に参加していただくなど、地域とのつながりは深い。特に花火大会は、地域の方から開催日を聞かれるなど、楽しみにしてもらっている様子。施設内では、折々の季節の行事を大切に利用者に参加できる方法で楽しんでいる。認知症だからできないと思わず、できることを引き出す工夫がされており、認知症ケアの実践の高さが感じられた。法人内に多くの事業所があるため、多様な専門職から助言をもらうことが容易であり、研修会の内容や頻度も充実していると感じた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホーム ひもろぎの園	地域密着型サービス事業者として、認知症になっても地域の中で安心と尊厳のある生活が送れるよう、スタッフ間理念の共有の下で申し送りやミーティング、カンファレンス、勉強会などを行っている。	1階2階とも、壁に理念を掲示しており、いつでも見られるようになっている。年に1回理念についての研修会を行っている。ミーティングで、迷ったときには、理念を振り返るようにリーダーが声掛けしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して地域の代表の方との情報交換を行い、毎年近隣の関山の山開きや小学校の運動会に招待いただき参加している。地域の方の協力を頂いて防災訓練を行っている。買い物や回覧板などを届ける事で地域に出掛けている。	近隣の山開きのセレモニーや、小学校の運動会に毎年参加している。回覧板を利用者と一緒に届けに行っている。散歩の途中で住民の方から農作物をいただいたり、近隣の方々と交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あんしんメイトの実習受け入れなどを通して認知症についての理解や対応、コミュニケーションについて説明し対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所、地域包括支援センター、介護相談員、民生委員、御家族様の代表に参加いただき、スライドをとおしてホームの活動を報告しご意見や情報を頂いている。又意見交換会を通して認知症に対する理解を深めている。	スライドを使用し取り組みをわかりやすく報告している。民生委員が、防災訓練や地域のイベントの調整をしてくれたり、ボランティアや地域のサロンの情報を会議で提供してくれるため運営の参考になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢福祉課と連携を図り、あんしんメイトの実習や介護相談員の受け入れなど連携を図っている。	運営推進会議に毎回市の職員が参加している。市からあんしんメイトの実習の依頼を受け、年に何回か受け入れているなど協力体制ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部、内部研修、グループホーム内の勉強会などを通して身体拘束の知識を高め、身体拘束をしない取り組みを行っている。日中の玄関の施錠は行なわず職員間で見守りを実施している。	年に1回の法人研修会、ホーム内の研修会のほか、所属協議会主催で、施設に研修に来てくれる企画があり、研修の機会を十分に持っている。出入り口の施錠はせず、2階の入り口に出るときは声をかけてくださいと張り紙をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部研修、グループホーム内の勉強会などを通して高齢者虐待防止関連法について理解する機会を持ち、お互いが目となり虐待の無いよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御家族様からの相談に対し、制度についての相談と制度についての資料などを送付するなど対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時、契約時など十分に説明し、不明な点や不安な事などいつでも対応できるよう、説明し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会交流会を開催し、ご家族様との交流を通してホームの取り組みや日頃の様子など伝えたり、勉強会などを通してご意見を頂いている。総会に於いて事業収支を報告している。頂いたご意見等運営に反映している。	家族会総会で生活の様子をスライドで報告することで、家族の疑問や不安が解消され、コミュニケーションの一助ともなっている。そのため、普段から意見や感想を言いやすく、その場で対応することができている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングや日々の申し送り等で職員の意見や要望を聞く機会を設けている。又、人事評価制度に於いて面談を行っている。法人全体に於いては主任者会議に出席し内容を職員に伝達している。	職員とリーダーが年に一回面談を行っている。プラス面を強化する対応を心掛けている。業務中やミーティングの時など、いつでも職員から意見を言ってくることが多い。職員からも言いやすい雰囲気があると聞いた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度に於いて面談を行い職員個々が向上心を持てるよう取り組んでいる。個々の職員の生活事情に配慮し、雇用形態や就業時間等に対応している。SDSやストレスチェックなどを行い、職員の精神状態などにも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修、ホーム内の勉強会に参加する機会を確保している。また個々の技術向上に向けてカンファレンス等行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等の研修会や交流会、実践報告会への参加などを通して他事業所との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の安心できる状態を確保できるよう、入居前に既往歴や生活歴を把握し、事前に話を聞くなどして要望に沿えるようスタッフ間でも話し合いを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前にご家族様から話を伺い、困っている事や心配な事を確認し、情報をスタッフ間で共有し合う事で統一したケアを心がけている。又、特変時には連絡を入れており、月に一度は状態の報告として手紙で近況を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を開始するにあたって、ご本人様の状況を確認し、何が必要かを見極め、必要な場合には医師、看護師、リハビリ、栄養士などの専門家からのアドバイスをもらいながら支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来る事、出来ない事を見極め、過剰な介護はせずゆっくりとした時間の中でご本人様にとってより良い生活が過ごせるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙を書き月ごとの行事や日常の様子を報告している。家族会や花火大会への参加をお願いし一緒にふれあう時間を大切にしている。又、外出や病院受診も出来る限り同行して頂くようお願いし状況を把握してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前入居していた場所が敷地内である為本人が行きたい時や友達に逢いたい時には同行する。毎週お茶会にも参加している。又、馴染みの店へ買い物へ出掛け知人と声を掛けあったりと関係が途切れないようにしている。	入居前に通っていた美容院や化粧サロンに出かけ、お茶を飲んで話をしてくれる利用者がいる。出かけられない時は美容師が来てくれることもある。知り合いが同法人のサービス利用の際、面会に来てくれることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	女性の入居者が多い為、一人一人の性格や関係性を把握し、余暇活動や会話をしている中でトラブルや孤立しないよう職員が間に入り支援している。又、他者へお世話をしている時には過剰にならない程度、不快に思われない様に見守りや声掛けに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居前、退居後においても本人、ご家族様との話し合いを行い、又次の施設等へ移動される場合には移動先の施設との連携を行い、移動後に於いても連携を図れるようにしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今まで生活してきた暮らし方や希望など本人や御家族様に話を聞くなどして、その人らしく生活できるようスタッフ間で思いや情報を共有している。思いを受容し話に耳を傾けるよう心掛けている。	本人、家族の意向や思いを聞くと同時に、サービス事業者からも本人の状況を可能な範囲で聞き取りし、多方向から本人の意向や状況を把握しようとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実調やサービス利用者からの情報収集などを行い、本人の好きな事や続けたい事などが継続していけるようスタッフ間で情報を共有しミーティング等で話し合いを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの生活リズムや心身の状況など主治医や他職種に意見を求めるなど行っている。本人の出来る事や好きな事を把握できるようスタッフ間で情報を共有し話し合いを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や御家族様の希望を出来るだけ反映した介護計画を作成できるよう話をお聞きしたり、情報の収集、ミーティング等での話し合い等行う。必要に応じて他職種に相談している。	月1回のフロアミーティングで、毎回全利用者について、個別検討をしている。必要に応じて、法人内のリハビリ職や栄養士などの専門的な意見を求めることができる。	個表を活用して個人の把握をしているが、把握した内容を共有するために、口頭での引継ぎだけではなく、だれが見てもわかるような形を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々の様子やケアの実践、結果など個別記録に残し申し送りを行っている。また問題点やケアの仕方などその都度話し合いケアの統一に努めている。話し合い実行した内容を介護計画の見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに対応し、隣接する老健と連携しお茶会に誘って頂くなど対応している。また、老健の看護師やリハスタッフ、栄養士、居宅ケアマネ等などに相談や協力、助言をいただきながら御家族様の要望や問題解決に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域代表の方の参加、行事を催す際の招待、地域行事の参加、防災訓練の参加等を通し交流を図っている。地域の一員として入居者を支えて頂けるよう呼びかけ、安全で楽しく豊かな生活ができるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人が入居前のかかりつけ医療機関を継続したり、協力医療機関に変更したりと、その時に応じて御本人や御家族の希望を確認して対応している。受診時は、御家族の協力を得たり、ホーム対応時には受診結果を御家族に報告を行っている。	希望により、今までのかかりつけ医療機関継続か、法人の協力医療機関に引き継ぐか選択できる。受診の結果は、電話や面会時に直接報告をし共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活の中で、御本人の身体状況に変化があった時には、ホーム看護師や老健看護師、連携看護師に状態報告し相談し助言を頂いたり、必要に応じて受診したりと、協力関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、御本人や御家族の不安を軽減するように、かかりつけ医、医療関係相談員と密に情報交換を行っている。入院中も面会に行き、ホームに戻る環境作りの為に、情報交換を行ったり、老健PT等に相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に状態が悪化してきた際、看取りについて何度か話し合い、ホームで出来る事出来ない事の説明を十分に行い、御本人や御家族の意向を確認し、他関係機関と協力し、御本人が穏やかに最期を迎えられるように連携し支援を行っている。	終末期の対応については、入居時と体調悪化時に家族と話をしている。施設での対応が難しい場合は病院を利用することもあるが、その際は病院の地域連携室と連携したり、家族の相談を受けたりする支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時の対応等の確認を行ったり、法人で年2回合同の防災訓練を行っており、その際に心肺蘇生などの訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や急変時の訓練を行い、スタッフ間でも十分情報を共有しながら適切な対応が出来るように努めている。又、地域の方にも参加して頂き非常時に参加して頂けるように地域の方との連携も大切にしている。	年に2回、地域の消防団や民生委員に参加してもらい合同の防災訓練をしている。ホーム内では災害伝言板の利用の訓練も行った。秋の訓練の際は水害を想定し、垂直避難の方法を消防団員と確認しあった。	作成してあるマニュアルを、より具体的な内容を盛り込んで更新しておくと思う。また、地震、水害、停電などを想定したものも今後加えていってほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の個性、特性に合わせて対応を行っている。また、言葉遣い等を気を付け本人の人格やプライバシー等に目を配り本人の尊厳を損ねないように心がけている。	トイレの声かけを利用者の耳元で言ったり、スタッフすべてが、穏やかな態度や声掛けで対応をしているのが確認できた。研修委員会で、接遇や権利擁護の研修を企画し行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣替え等を行い、その時々にあった服装が出来るよう支援している。また、天気の良い時などは買い物や外気浴、散歩等を行い気分転換を図るなどを支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活環境に応じて、出来る範囲で食事・入浴・排泄等を行っている。個々にできない場合は、その都度介助し支援を行っている。また、日中はレクリエーション等を取り入れながら、食事作りや、洗濯物たたみ等のリハビリが出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洗顔、口腔ケア、入浴、食事等を行う上で清潔に保てるよう支援している。また、定期的に髪をカットしたり、毛染めを行う、化粧やマニキュアをするなどの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の趣味、嗜好に配慮しながら手伝いをお願いし、スタッフと共に楽しみながら家庭的な雰囲気を感じてもらえるように支援している。	基本的なメニューはスタッフが決めるが、毎日利用者と買い物に出かけ、ほしいものがあれば、メニューを差し替えている。おやつも買い物で希望のものを買ってきたり、数種類の中から選んでいただいたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせて食事状態や水分摂取量を調整している。又、医師より水分や食事制限されている入居者にはチェック表で状態を確認し、医師に相談、報告をし助言を頂いたりと情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者それぞれの状態に合わせて歯ブラシや歯間ブラシなどを活用したり、必要に応じて介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。又、夜間は義歯を預かり、ポリドントで消毒を行っている。又、必要に応じて歯科受診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の状態に合わせて支援が必要な方には排泄チェックを行なっています。また排泄時間を把握し職員間で声掛けしあいながら支援を行っています。	排泄チェック表に個人ごとの下剤の種類や投与方法・回数を記載しているので、わかりやすく工夫されていることが確認できた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表をこまめに確認しながら看護師、職員間で相談し個々に合わせて対応しています。きなこ牛乳を提供したり下剤で調整を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ利用者の希望を聞きながら入浴を楽しんでいただけるように支援を行っています。入浴の手順を同じにしたり利用者の意志を尊重し洗身、洗髪の介助しています。入浴剤を使用して気分良く入浴できるようにしています。	夕方から夜にかけて入浴してもらっている。個人ごとに、椅子の置き方や浴槽の入り方が違うので、スタッフ間で共有して利用者に合わせて介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を観察し利用者の気持ちを優先し休息して頂いたりテレビを観たり、良眠につながるように軽度の体操やレクリエーション等を取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	連携シートを作成し、職員全員が入居者がどの薬を内服しているかを把握できるようにしている。又、内服薬に変更があった時は申し送り時全職員に分かるようにしている。内服方法の統一、確認作業の徹底をし、内服ミスのないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の出来る事を声掛けし、おてつだいで頂いたり、余暇の時間に趣味を生かしてカラオケ、散歩、縫物等行ったりと本人の楽しみが出来るよう、気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望を聞きながら、買い物や散歩等に行っている。又、バスハイク、運動会、初詣等、外に出れるように支援している。	買い物、散歩はほぼ毎日出かけている。ご家族と外食に出る方もいる。施設の行事として、初詣、年に2回のバスハイクで、外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より小遣いとして過預かり、普段は金庫にて管理をしている。使用は主に買い物や美容室利用時。能力に応じてご自身で支払いができるよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いはがきは全員がはがきを書き、親しい人への挨拶を行っている。又、誕生日や母の日等に荷物が届いた際にお礼の電話を入れ、声を聞いている。その他にも訴えがあれば支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースには、季節の行事に合わせた飾り付けや入居者様の塗り絵や写真などを飾っている。冬期間にはリビングにコタツを設置しアットホームな雰囲気を作れるようにしている。台所は対面式になっており、入居者様の様子が見渡せるようになっており、一緒に食事の準備をしたり、食堂の入居者様を見守れるようになっている。	季節ごとの飾り付けや、写真の掲示の方法に工夫がされていて、温かい雰囲気が醸し出されている。ピアノや植物が置いてあり、家庭の雰囲気も感じられた。テレビの前に炬燵が設置されているのも、居心地が良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂に皆で観るテレビの他にロビーにももう一台テレビを設置する事で、気の合う入居者同士が好きな番組を観たり、冬になるとこたつスペースを備え、皆でこたつに当たりながら会話を弾ませ一緒にお茶を飲んだり思い思いの時間を過ごして頂いている。食堂も入居者同士が会話がしやすく動線にも配慮し環境整備を行い安心して過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際、御家族とも相談し本人の希望も踏まえ使い慣れているタンス等の家具や電化製品、思い出のある物を持参して頂き、出来るだけ家に近いような馴染みの空間をつくる事で、グループホームでの生活が安心して送れるように配慮している。	昔ながらの鏡台を持ち込んでいる方が何人かおり、毛布や家具などの持ち込みも多く、その人らしい空間になっていた。誕生月にはおめでとうのプレートが居室前に飾られると聞いた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	外の状態が気になり出来る入居者には草むしりや枯葉の掃き掃除等職員と共に一緒に行っている。又、低めの流し台やテーブルになっているので一緒に台所に立って仕事を行って頂き残存機能を生かした支援を行えるようになっている。		